



令和 7 年 11 月 28 日
双海中学校保健室
2 年生思春期教室号No.3

2 年生は、助産師の経験を持つ、愛媛県立医療技術大学の中越利佳先生を講師にお迎えして、生命誕生の経過をお話していただきました。また、妊婦体験や赤ちゃん人形を抱っこする体験活動も行いました。自分の命のはじまりを感じ、自他の生命を大切にすること、親への感謝を考えるよい機会となりました。

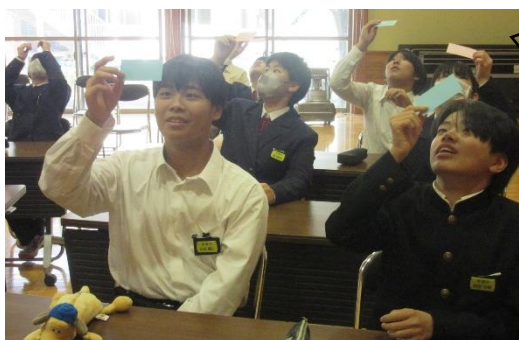
生命の誕生 ～命の大切さ～

☆☆☆命は奇跡の積み重ねでできている ☆☆☆

卵子



命の始まり ～卵子の大きさを探してみよう～



「この穴の大きさ。何か分かりますか？」
みんなが見ているのは、自分の命の始まり。
受精卵の大きさです。

私たちの体の最初の大きさは、針の先の大きさ、 $0.1 \sim 0.2 \text{ mm}$ くらい。

「え～！私、こんなに小さかったの！？」

妊婦体験 ～妊婦さんのしんどさを実感してみよう～



赤ちゃん抱っこ体験 ～お母さんの気持ちを実感してみよう～

妊婦ジャケット(8.5kg)をつけて、その重さにびっくり。床に落ちたペンを拾うのも動くのも大変。「お母さんはこんなにしんどかったんだ・・・」と実感。

赤ちゃん人形を抱っこ。やわらかくて小さな赤ちゃんを愛おしい表情で抱く生徒たち。赤ちゃんの命の重みをしっかり感じていました。



赤ちゃん、かわいいな。
思っていた以上に重いな。

おなかに赤ちゃんがいて、
こんなに重たいんだ。
お母さんは大変だなあ…。





愛媛県立医療技術大学教授 中越先生からのメッセージ

みなさんは、すごい確率で生まれてきた奇跡的な命です。ご先祖さまの誰か一人がいなかったとしても、あなたは生まれてこない。そして、ここにいるみなさんが出会えたことも奇跡。そんな大切な命を大事にしてほしい。自分の命も、そして、他人の命も・・・。

世界中に私の代わりは誰もいない みんな一人一人がきれいな星！

思春期教室を振り返って

- 自分が生かせてもらっているのは、とてもありがたいことなだと分かりました。生まれて今日まで、数えきれないほどの人たちに支えられていると思うと、自分をもっと大切にしたいです。そして、人も大切にしたいです。好きなことができる人生を与えてもらったので、思いっきり楽しい人生にしたいです。
- 反抗的になっている私の面倒を見てくれている家族に、感謝の気持ちになりました。「今の時期も自分をつくる大切なときだ。」と思って、がんばっていききたいなと思いました。
- 中学生の自分は、いろんなことが気になります。一番難しいのは、相手の気持ちを分かってあげることです。でも、中越先生の話聞いて、「日頃から意識して生活していたら相手の気持ちが少しずつ分かってくるんだ。」と自信が持てました。
- 「人とは比べない」という言葉が心に残りました。自分は人と比べてしまうことが多く辛いことなどもあったけど、中越先生の言葉から、「自分は自分らしく生きよう。」と思いました。そして、家族への感謝の気持ちでいっぱいになりました。
- 生まれてくる確率はとても低いことを知りました。今と昔では、考えが変わりました。今の僕は、将来のことを考えるようになりました。だから、僕も成長しているんだなあと思いました。

保護者の皆様へ

お子様への手紙を書いくださり、ありがとうございました。手紙を開くと「涙が出てくる。読めない。」と言いながらも、しっかり心に刻みながら読んでいる姿が印象的でした。生徒の感想には、たくさんの感謝の言葉が溢れていました。このような機会に親の気持ちを知ることができ、生徒も大変うれしかったと思います。

